当社のブランドマーク（商標）です。これからもよろしくお願いします。

年　頭　ご　挨　拶

代表取締役　田上　寛

新年明けましておめでとう御座います。昨年中は、新体制でスタート致しました株式会社電制に、温かいご支援ご指導を頂きまして誠にありがとうございます。

早いもので、社長就任から1年が過ぎ、本広報紙「とらい」での新年のご挨拶も2回目となりました。国内外の動きを振り返ってみますと、私が社長に就任したその日、2008年9月15日にリーマンブラザーズが破綻したというニュースが流れ、その破綻直前まで僅かながらも景気立ち直りの兆しを見せていた日本が、再び景気低迷に陥りました。また、長引く北海道経済の冷え込みは一段と厳しく、消費者の購買力低下の中で老舗丸井今井百貨店の事業譲渡や五番館の閉鎖など、道民にとっては残念な結果となったことも記憶に新しいところです。一方、国内政治においては、福田内閣に代わっての麻生内閣が2008年9月に発足しましたが、大臣の失態などで支持率が急落し、その状況下で行われた昨年8月30日の衆議院議員総選挙では、自由民主党が歴史的な大敗を喫して、1955年結党以来、半世紀以上に渡ってほぼ一貫して政権を担ってきたその政権の座から遂に降りることになりました。その結果、国民の期待を背負って政権の交代を成し遂げたのは民主党・国民新党・社民党の連立与党ですが、果たしてどこまでこの疲弊した日本を変え、景気を回復させることが出来るのか、期待も大きいのですが不安もあります。とは言え、新政権発足から数カ月ということで、まずは今しばらく様子を見る必要がありそうです。

さて、当社は今年の秋に創業33年目を迎えます。「企業の寿命30年説」というものが定説の如くあるようですが、当社は長引く不況の中、何とかその30年目を乗り切り、現在に至っています。この30年という節目をV字回復のときとすべく、新らたな経営方針そして経営ビジョンを掲げて活動し、電力技術分野の体制充実を図るなど事業改革に取り組んだ結果、少しずつ回復の兆しが見えてきました。その主たる要因は、お取引頂いている北海道電力株式会社様をはじめ、数多くのお客様からのご支援を頂いたことは勿論のことではありますが、その一方で社員の団結力も計り知れないパワーとなったことは無視できません。今後は、V字回復ならぬV字飛躍を目標に、良き仲間である社員皆の結束によって、「企業の寿命30年説」を「企業の飛躍30年説」に変える様努力し、何をどの様に進めていくかを具体化していきます。

V字飛躍のために何をどの様に進めていくべきか。私が今、重要と考えていることは「**本質とバランス**」です。つまり「何事をするにも物事の**本質**を捉え、その上で配慮すべきことも考え**バランス**よく行動せよ」ということであり、この極々当たり前のことを社員皆が当たり前に行っているか、ということです。

指示や依頼を受けたとき、その言葉の表面だけを捉え、状況に配慮もせず行動してはいないだろうか。仮にそうであれば何らかの問題が生じるのは当然です。例えるならば、「停電作業が必要」と聞き、電気を利用している人への配慮もなく直ちに電力を停止してしまう様なものでしょう。

このような無思考行動が常態化すると、「気の利かない人」となり、お客様への対応を任すことができない人となってしまいます。

行動を起こすということは、現状の物や人に対し、何らかの影響を与えるということですから、次の行動のあり方が重要になります。起す行動の影響の範囲や度合いをよく考え、充分配慮することが鍵であり、その配慮こそが、私の考える「**バランス**」というものです。

物事の本質を捉えること、そしてバランスよく行動すること、この両方が出来て初めて安心して仕事を任せられる人になるのではないでしょうか。電制が、より信頼され期待される会社となるために、社員の皆さんとともにもう一度「**本質とバランス**」を考え、研鑽に努めたいと思います。

最後となりますが、社員の皆さんには、経営方針にある「**人に感動を与えることを業とする会社であり、社員みんながワクワクする会社であること**」を実現するために、今まで以上に熱い心を持って何事にも取り組むことをお願いし、また、ご支援頂いている皆様方には改めて厚くお礼申し上げ、私の年頭のご挨拶と致します。

22/33kV アルミハウジング式開閉設備のご紹介

写真１－全体外観（変電塔タイプ）

22/33kVアルミハウジング式開閉設備（全天候型屋外キュービクル）【写真1】は、オールインワン構造と耐環境性能を主たる特徴として2007年より納入を開始させていただいており、工期短縮や保守性向上にその効果を発揮しております。

本開閉設備の性能評価について

写真２－ハウジング屋根融水状況

今回は、断熱性能の評価結果の概要を紹介させていただきます。

【写真2】は厳冬期におけるハウジング屋根融水状況です。

屋根融水による氷塊はなく、降雪時の状況が維持されており、内部熱の伝導経路は遮断されている事が伺えます。

また長期にわたる温度測定データを図1に示します。

外気温度の変化に対して室内温度の変化は緩やかに推移しており、外気の影響を受けにくい状態である事が伺えます。

状況およびデータから硬質ウレタンパネル採用などによる高い断熱性能の効果が確認できました。今後とも継続して評価を実施して参ります。

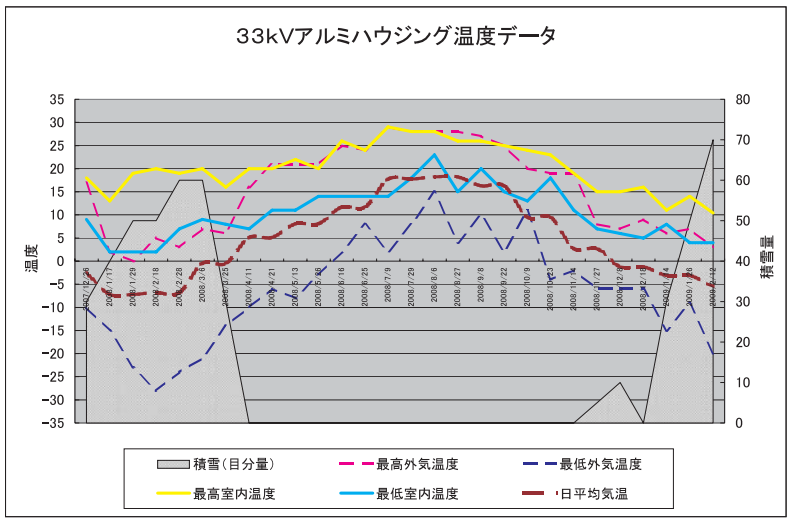


図１－長期測定温度データ

継電器組込制御盤のディジタル化

装置外観

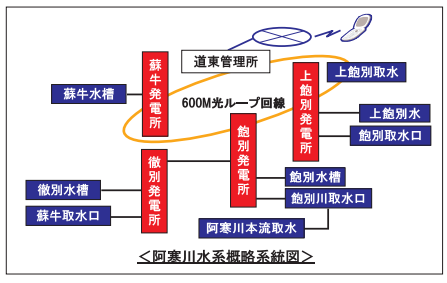
また今後の22/33kV系設備更新に合わせ、継電器組込制御盤のディジタル化につきましても北海道電力㈱様のご高配により開発の機会を頂き、昨年に初号機を納入させて頂くことができました。

連変用、送電線用制御盤をそれぞれ350mm幅配電盤にて構成するためディジタル保護ユニットの適用を主としてコンパクト化し、大幅な縮小化を図るとともに適用の柔軟性を考慮したシステム構成としております。

今後ともお客様のご期待に沿えるような製品のご提案ならびにご提供を進めてまいります。

最後に、キュービクル納入ならびに制御盤開発に際し多方面にわたりご指導いただきました北海道電力㈱の関係者の皆様に書面をお借りして厚く御礼申しあげます。

阿寒川水系情報監視装置更新物件　受注紹介



この度、ほくでんエコエナジー㈱様より、阿寒川水系情報監視装置更新物件を受注致しました。現在、ソフトウェア開発作業中ですが、標準的機能に加え、当社次世代ダム管WGで検討していた携帯電話による情報閲覧や異常発生時のメール通報機能を実装し、実運用にマッチした使い勝手の良いシステムとしてご提供できるよう取り組んでおります。

札幌市水道局仕様のテレメータを開発

この度、札幌市水道局様向けの幹線テレメータ装置を開発致しました。本装置は、子局と親局とで構成され、子局は専用回線を介して水道管の水量を測定する幹線流量計の情報（流量や浸水警報など）を親局に送信し、親局は子局から受信した情報を上位の計算機システムに受け渡す装置です。今後は更にI/Oユニットの開発を進め汎用テレメータとしても御利用頂く予定でおります。

安全パトロール実施報告

安全パトロール実施風景

当社は、社内安全衛生委員会のもとでお客様から請け負った工事現場の安全パトロールを実施しており、昨年は10月に冨村発電所187kV冨村線保護継電器盤取替工事の安全パトロールを実施してきました。

当社は、これからも妥協のない厳しい目で安全パトロールを実施していき、「信頼される電制」・「期待される電制」として無事故・無災害の継続に鋭意努力して参ります。

新製品：ユアトーンⅡ ゆらぎのご紹介

第４回モノづくり連携大賞　特別賞受賞

昨年6月、新製品「ユアトーンⅡ ゆらぎ」の販売を開始致しました。10年間ご好評を得ましたユアトーンの待望の新製品です。格段に使いやすく、また製品名にもなっております新機能「ゆらぎ」にて人の声に含まれるゆらぎ成分を再現し音質の自然性を追求した製品となっております。

各種展示会への出展

北海道技術・ビジネス交流会展示ブース風景

『電気学会全国大会（北海道大学にて2009.3.17～19）』と、第23回目を迎えた『北海道技術・ビジネス交流会（アクセスサッポロにて2009.11.12～13）』に、新製品である『ユアトーンⅡ ゆらぎ』と『テレメータ』を出展致しました。

お陰様で『ユアトーンⅡ ゆらぎ』は勿論のこと、電力製品開発で培った技術から生まれた『テレメータ』も大勢の方々から好評戴きました。

江別市ものづくりフェスタへの参画

2009年9月12日（土）に開催されたほくでん総合研究所での「えべつものづくりフェスタ2009」に参加し、江別市民との交流を深めました。江別市に本拠を構える当社としましては今後も様々なかたちで市民との交流を深めてまいります。

編集後記

この度、初めてとらい編集を担当致しました。

慣れない仕事で苦戦しましたが、皆様のお目に触れる社外報の発行に携われたことを大変嬉しく思います。今後も当社の取り組みをより良く知って頂けるよう頑張っていきますので、とらい共々よろしくお願い致します。〈C〉

発行所：（株）電制　編集局　TEL 011-380-2113